

9. 養殖魚安定生産・供給技術開発委託事業 (抜本的な生産コストの抑制手法の開発)

松倉一樹

本プロジェクトは、平成 26 年度から国立研究開発法人 水産総合研究センターを代表機関として、東町漁業協同組合、鹿児島県水産技術開発センター、有馬屋水産株式会社、東京海洋大学が参画した JV が、主要な養殖魚種であるブリについて、低魚粉飼料への転換、給餌量の抑制、飼育密度の改善等の条件を組み合わせた飼育試験を現場レベルで行い、従来の飼育方法との比較により、生産コストの削減効果を評価する。最終的には、生産コストに見合った養殖生産体制の構築に

資することを目的とする。当試験場では、小割生簀を用いたコストの比較試験における飼育魚の健全性の評価による試験飼料の評価を担当している。今年度は、飼料中の魚粉量および給餌頻度を変更した試験区のブリについて、魚病検査、血液性状および血漿化学成分の分析を行い、その結果をもとに、低魚粉化や給餌頻度の変更がブリの健全性に及ぼす影響等を検討した。

(担当：松倉)